



嵐山の四季折々のすばらしさを世界に発信

商品の売り上げの一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き自動販売機の設置にご協力いただいている株式会社渡月橋専務 田村真一さんにお話を伺いました。

Q 自動販売機を利用する方の反応は？

レストラン嵐山内の団体観光客用バス待合場所に設置しています。平成 19 年度に除幕式を行なった時のパネルと一緒に掲示しているのですが、ご年配の方などが熱心に見ておられることがあり、企業の社会貢献活動への関心度を実感しています。

また、外国人の方は、自国の防犯上の問題から、自動販売機が屋外に設置されていること自体が珍しいこともあり、記念撮影をしている様子も見受けま



Q 嵐山に対する思いは？

レストラン嵐山は渡月橋が一望できるスポットにあります。この美しい春夏秋冬の景観を国内外の観光客の皆さまに堪能していただくため、店舗の増築や設備の充実を進めています。また、毎年 12 月に開催されている京都・嵐山花灯路などのイベントとタイアップして、多くの方に嵐山のすばらしさを知っていただきたいと思います。



写真：田村真一氏

●平成 26 年度賛助会員● 平成 26 年度は下記の皆様にご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

(個人)
相原 満／青木 巖／青木 義照／赤澤 正明／浅田 毅／芦田 正／足立 和康／荒金 博美／居内 学／池澤 喜博／生駒 勲／石川 日佐美／石田 洋也／磯林 雅之／伊藤 真嗣／伊藤 正人／稲石 勝之／井上 信行／井上 博史／岩佐 江佐子／岩崎 清／岩崎 亘男／上北 泰史／上原 智子／江田 類宣／江藤 修／太田 滋子／大塚 健志／岡崎 篤行／小笠原 恵一／岡田 圭司／岡田 耕介／岡野 哲也／岡本 正二／岡本 秀巳／岡山 尚義／奥 美里／奥村 武也／尾崎 学／押谷 昌成／角村 直夫／笠岡 英次／加藤 昭／門川 信一郎／川上 輝夫／川口 浩／川本 淳一／上林 研二／北川 洋一／鬼頭 謙／来海 賢一／木村 忠紀／木村 真紀子／木本 剛／桐田 耕太郎／黒川 淳介／黒田 芳秀／桑原 尚史／小泉 光太郎／小西 操／小西 吉治／金剛 育子／坂口 景章／坂田 榮一／坂本 正寿／佐竹 和男／佐藤 七重／佐藤 寿／佐藤 洋／佐藤 友一／真田 松寿／鮫島 恵子／澤本 彰三／四方 喜代子／柴崎 孝之／柴田 肇／島田 和明／島村 哲郎／清水 博之／清水 保孝／神谷 宗宏／杉浦 伸一／杉崎 和久／杉本 憲二／炭崎 勉／関岡 孝雄／相馬 隆志／園 孝裕／醍醐 孝典／高川 祐子／高木 勝英／高木 貴子／高木 伸人／高杉 学／高橋 ありす／高溝 良輔／高谷 和代／高谷 基彦／多田 吉宏／田中 隆／田中 啓司／谷口 功尚／多見 貞子／塚本 栄一／辻 真紀子／辻 誠／津嶋 俊郎／津田 知幸／出口 秀明／寺澤 昌人／寺島 彰／寺田 敏紀／寺田 史子／寺本 健三／富山 育子／豊田 祐輔／内藤 郁子／長岡 靖彦／中川 明彦／中川 敬博／中北 好宏／中島 吾郎／中島 弘益／中田 理央／中司 小百合／中村 進一／中村 有希／中山 雅永／生川 慶一郎／二木 久雄／西澤 亨／西嶋 淳／西村 健／野原 将嗣／則本 和弘／芳賀 正昭／園黒 健夫／橋本 勝喜／橋本 操／畑 正一郎／旗 哲也／畠中 功／畠中 一男／早崎 真魚／林 敬太郎／林 建志／林 道弘／速水 孝治／平井 義也／平竹 洋子／吹上 裕久／福島 正俊／福田 敏男／福林 文孝／藤木 完治／藤村 知則／船橋 律夫／文山 達昭／古川 吉則／平家 直美／別府 正広／堀池 雅彦／堀 有輝子／前田 史浩／牧野 忠廣／松田 彰／松田 尚也／松村 光洋／松村 互／丸本 治／水谷 新太郎／水口 義晴／三村 浩史／宮岡 和子／宮岡 博之／宮川 和久／宮村 友子／村上 真史／元持 清／森川 宏剛／八木 繁紀／八木 なるみ／安本 典夫／柳原 博實／山内 典子／山内 みどり／山本 一博／山本 耕治／山本 茂／山本 洋子／湯浅 博央／横田 政広／横田 幸子／吉田 友彦／吉永 順子／和田 豊志 他 10 名 (敬称略)

(団体)
大阪ガス株式会社近畿圏部／「京ぐらし」ネットワーク／京都駅ビル開発株式会社／公益社団法人京都市観光協会／京都市建築協定連絡協議会／京都信用金庫／一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会／株式会社ジェイアール西日本伊勢丹／株式会社セロ・コーポレーション／一般社団法人相続相談センター／株式会社地域計画建築研究所／TOWA 株式会社／株式会社八清／株式会社ひでみ企画／平安建材株式会社／松ヶ崎自治連合会／株式会社フラットエージェンシー／ミサワホーム近畿株式会社京都支店／株式会社都ハウジング／立命館大学歴史都市防災研究所／ローム株式会社(敬称略)

平成 27 年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方は当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

京都市景観・まちづくりセンター 賛助会員募集

検索

賛助会員には、以下の特典があります。

- 特典 1 ニュースレター「京まち工房」(季刊・年 4 回)
- 特典 2 各種セミナー参加のご案内 (随時)
- 特典 3 当財団ホームページへのバナー掲載 (団体会員)

年会費

個人 1 口 5,000 円
団体 1 口 50,000 円
(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127

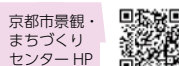
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1

(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下 1 階

TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704

E-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

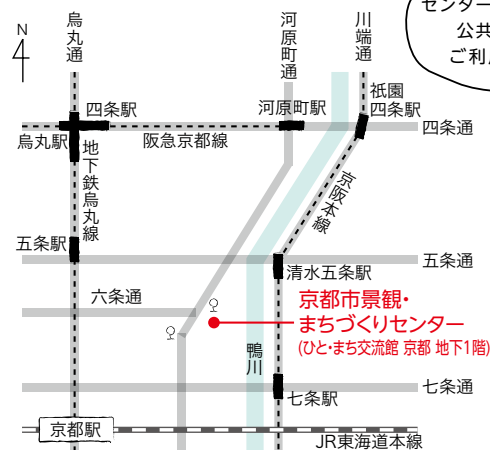
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/



開館時間 平日・土曜 9:00～21:30
日曜・祝日 9:00～17:00

休館日 毎月第 3 火曜 (国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始 (12 月 29 日～1 月 4 日)

交通 バス 市バス 4・17・205 号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8 分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10 分



センターへお越しの際は
公共交通機関を
ご利用ください。



公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房 70

特集
P2-3

姉小路界隈のまちづくり
—これまでとこれから—

景観・まちづくり大学
P8-9

「京のまちかど」
案内ボランティアさん紹介
京都三条ラジオカフェ ほか
P10

私と京都
スタッフのつづき
P11

平成 26 年度
景観・まちづくりシンポジウム
「地域をひらく：
新しい人を受け入れる形」 P4-5

京あるき in 東京 2015
P6

京町家再生事例 北村邸
「わたしの“町家”の守り方」
P7

姉小路界隈のまちづくり

—これまでとこれから—

平成
7年

平成 7年 「姉小路界隈を考える会」設立

「姉小路界隈を考える会」は、マンション建設計画をきっかけに設立されました。反対運動だけではなく、自分たちの住むまちを見直す目的を持ち活動を始めました。



ジャズギターとゴスペルのタペ 行灯が灯る姉小路通

平成 9年 姉小路行灯会の開催

行灯を通りに並べる夏の京都の風物詩を復活させた「姉小路行灯会」は、平成 9 年から毎年地蔵盆の前日に開催されています。

この行事は、地元事業者の賛同や地域の人々の支援のうえに成り立っています。地域の人々やもえぎ幼稚園の園児、御池中学校の生徒が作った行灯約 600 基にあかりが灯り、夜の姉小路通を照らします。

平成 14年

アーバネックス三条竣工

「アーバネックス三条」は、姉小路界隈を考える会と事業者が、設計コンセプトづくりを行った、日本初の地域共生型マンションです。住環境や町並みに配慮し、100年耐用の集合住宅です。



アーバネックス協議

アーバネックス三条

姉小路界隈地区建築協定締結

協定合意の同意書と印鑑証明を、3 ヶ月で約 100 軒からいただきました。地域の力を感じ、まちづくり活動を継続する励みとなりました。協定締結を記念して、まちづくりのシンボル（ガス灯）を建立しました。



ガス灯除幕式

〈建築協定の主な内容〉

- ①深夜営業のコンビニエンスストアの建設禁止
- ②家主が同居しないワンルームマンションの建設禁止

平成 12年 平成版町式目策定

江戸時代の町式目の内容を学び、平成版町式目を策定しました。

※町式目：住民で取り決めた町の決まりごとを記したもの。



平成版町式目



平成 16 年度～ 26 年度

街なみ環境整備事業開始

平成 26 年度までの 10 年間で 26 軒が建物を伝統的な外観に戻す修景を行いました。

平成 24年 街灯を電球色に交換

姉小路通（寺町～柳馬場）では、地域の方や専門家などの協力を得て、街灯、店の照明、家の外灯を電球色に取り替えしました。夜の姉小路通の景観に統一感が生まれました。



電球色の照明

平成 25年

姉小路界隈地区地区計画の都市計画決定

風俗営業店とカラオケボックスなどを規制する「姉小路界隈地区地区計画」が条例化されました。



審査員視察

平成 26年 住まいのまちなみコンクール国土交通大臣賞受賞

継続的なまちづくりや町並みの維持保全活動をする地域住民や住民組織を表彰する「住まいのまちなみコンクール」で最優秀賞の国土交通大臣賞を受賞しました。

地域景観づくり協議会組織認定

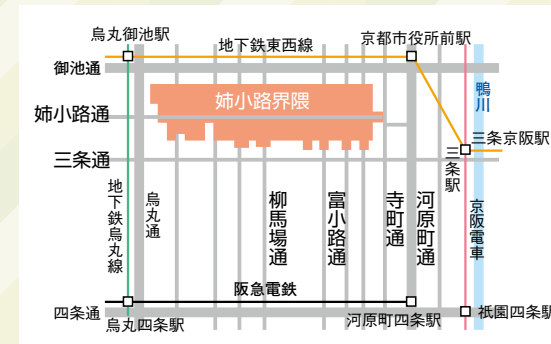
まちづくりの先進地域として有名な姉小路界隈。

まちづくり活動の中心を担ってきた「姉小路界隈を考える会」は、今年活動開始から 20 周年を迎えます。

これまでの活動を振り返り、今後のまちづくりの方針をまとめました。

姉小路界隈はどのようなところ？

御池通と三条通の間に位置する姉小路通を軸として、東は寺町通、西は烏丸通に囲まれた職住共存地区です。京町家や格調ある店舗、伝統ある旅館などを中心とした落ち着いた町並みの中には、著名人の筆による印象的な看板が多くあり、風格のある老舗が並んでいます。歴史を感じさせる町並みは、地域の人々や専門家、行政などの多くの人たちの継続した活動のもとに、保全・形成されています。



平成 27年 1月 地域景観づくり計画書を京都市に提出しました。

地域景観づくり協議会とは？

地域の方々が地域の景観に対する思いや方向性を共有し、建築主や事業者などと一緒に地域景観づくりを進めていくための制度です。現在京都市では、修徳学区、先斗町、西之町、一念坂・二寧坂、桂坂学区で地域景観づくり協議会が運営されています。

「姉小路界隈を考える会」会長インタビュー

●地域景観づくり協議会を通じて目指したいこと

姉小路界隈を考える会は、普通ならば「やっておしまい」な取組から、派生する問題を見つけては次の課題を設定し、活動を続けていくことができました。地域景観づくり協議会を通じて、今までの取組ではすくい上げられなかった問題に対処することができれば、と思っています。

●まちづくりで大切にしていること

会報『姉小路界隈』第 1 号にも書きましたが、私は、姉小路界隈に住んでいることにプライドを持っていたかと思っています。すごい所に住んでいるな、と思ってもらいたいし、すごい所に住んでいますね、と言われたい。このことを今後のまちづくりでも大切にしていきたいです。



「姉小路界隈を考える会」会長
市古和弘さん

姉小路界隈の今後のまちづくり

姉小路界隈に住まう人、お商売をする人がお互いに協力しながらまちづくり活動をしていきます。



風情ある町並みの保存／町並みに調和したデザイン・色彩の創造

暮らし・なりわい・文化の継承



伝統あるなりわいの継承と発展

静かで落ち着いた住環境

まちへの気遣いと配慮を共有・安全に安心して住めるまち



まちなかを歩く日でのイベント



姉小路界隈の詳しい活動情報は HP よりご覧いただけます。 <http://www.aneyakouji.jp/>

平成 26 年度 景観・まちづくりシンポジウム 「地域をひらく： 新しい人を受け入れる形」

平成 26 年 12 月 7 日 (日) 13:30 ~ 16:30 ひと・まち交流館 京都 2 階大会議室



話題提供 新川達郎氏 (同志社大学大学院教授)



京都市は人口減少、少子高齢化、暮らしの個人化、価値観の多様化が進む中で、人間関係が希薄化し、町内会加入率は6割に低下しています。このまま、地域の結びつきが低下すれば、地域の娯楽、相互扶助、愛着、信仰、文化などの喪失へつながります。

一方で、時代は今、公私ともに人材や資金などの資源が制約された状況にあり、地域の課題は地域で特定し、地域で実現する「地域

自治」が求められています。このような社会情勢のなか、各地域で「他の地域から移ってきた人」や「現在、地域活動に参加されていない人」などの新しい人を受け入れ、地域活動に参加する人材を得る取組が行われています。

そこで、「新しい人が参加しやすい仕組み」、「活動への参加につながる関係づくり」、さらに、「活動の継続・発展」につなげる事例紹介を通じて、人を受け入れながら目指す持続的な地域運営について考えます。

第 1 部：地域活動の事例紹介

成逸学区

牧本晴男氏
(成逸自主防災会会長)



「新しい人を受け入れる仕組み」

町内会活動を中心にした新しい人を受け入れる取組

地域のつながりづくりのため、マンション住民の町内会加入促進のルール「せいいつルール」の策定、マンション住民と地域の方が顔見知りになる交流会「せいいつ住まい交流会」の開催や、地域住民が気軽に立ち寄れる居場所「ほっと せいいつ」の開設などに取り組んでいます。

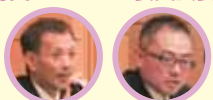
また、町内会と住民福祉協議会の緊密な連携を図りながら、災害時の住民の安否確認用の名簿や、高齢者の避難支援用の台帳などを作成し、災害時の助け合いの基盤づくりにも取り組んでいます。



せいいつ住まい交流会

待賢学区

左近允則氏 (写真：左)
(待賢住民福祉連合協議会会長)
内藤敏哉氏 (写真：右)
(待賢まちづくり委員会委員)



「関係づくり：人付き合いからの仲間づくり」

新住民や若い世代も積極的に地域活動に参加できる雰囲気づくり

新住民や若い世代の方も積極的に地域活動に参加できる雰囲気をつくり出し、地域に新しい風を吹かせたい。

そのために、元待賢小を拠点に、オープンカフェ「待賢まちづくりふれあいカフェ」の定期的な開催、町内の地蔵盆に参加できないマンション住民向けの地蔵盆「たいけん地蔵盆」の開催、地域の方と大学生でつくった蠟燭によるキャンドルナイト「エコキャンドルナイト」の開催など、さまざまな交流企画により、人と人との関係づくりに取り組んでいます。



エコキャンドルナイト

六原学区

菅谷幸弘氏
(六原自治連合会事務局長、
六原まちづくり委員会委員長)



「継続が生む力」

空き家の利活用の取組を通じた外部の協力者と地元との豊かな繋がり構築

空き家の活用行政との連携事業として取り組むも、「空き家はなかなか動かない…」という課題に直面し、事業終了後も活動を地域で継続することの必要性を感じています。そこで、事業中につながった内外部の専門化と共に、空き家活用の啓発冊子の作成や空き家の片付けなど、地域全体に問題意識を持ってもらう活動に取り組んでいます。

また、地域でのつながりを求める人が昨今増えるなか、気軽に立ち寄れる地域施設づくり、地域イベント参加者の中から、問題意識を持っている人に対する積極的な声かけなど、人を取り込む地道な工夫も行っています。



空き家の片付け

京都市の地域コミュニティ活性化への取組紹介

河村宏氏

(京都市文化市民局地域自治推進室地域コミュニティサポート担当課長)

自治会・町内会などの運営や地域の活性化に関する総合相談窓口「地域コミュニティサポートセンター (TEL:075-222-3098)」などについて、紹介いただきました。

地域情報発信ツールの展示

新しい人に参加してもらうには、まず「地域を知ってもらう」ことが大切であることから、各地域の魅力や特徴が盛り込まれた地域情報発信ツール (マップ、パンフレットなど) を集めて展示しました。



第 2 部：パネルディスカッション

コーディネーター：新川達郎氏

パネリスト：牧本晴男氏、左近允則氏、
内藤敏哉氏、菅谷幸弘氏



3 学区でのまちづくりの秘訣、課題、今後の展開などの紹介の後、全体テーマについて、会場からのご意見も踏まえながら考えました。

まちづくりの課題・工夫・成果・目標など

●成逸

- ・次の世代の人材の獲得が課題です。学校統合により、PTA からの若い人材の取り込みが困難になっています。今まで以上に、地域の行事などをきっかけに若い人の参加の機会をつくりたいと思います。
- ・やはり町内会のつながりが大事です。高齢者の居場所の把握などは、町内会からの情報がなくてはできません。

●待賢

- ・自分も参加してみて初めて、自主防災会のメンバー自体が高齢化していて活動が困難なことがわかりました。地域の方自身がもっと地域活動に参加するなどして、地域の実態を知ることが大事です。
- ・地道な働きかけにより、町内会会員が増えてきていますが、もっと会員を増やす必要があります。特にマンション住民の方には、災害時の助け合い・支え合いの重要性を理解してもらうことをきっかけに、地域活動に参加・協力を求めていると考えています。
- ・特に若い担い手を得るには、情報発信が必要です。従来の回覧板・掲示版に加え、HP・ブログ・SNS でも発信していくことにより、若い人を巻き込み、共に活動していきたいと思っています。

●六原

- ・空き家問題などは、専門家と連携して活動することで、地域も専門的な知識・ノウハウを身につけてきています。
- ・即戦力はおじさんたちですが、もっと新しい人に参加してもらうために、地域の人がいずれも立ち寄れる居場所「自治会館+消防団詰め所」での交流から、地域の活動につながると考えています。
- ・全力投球での活動は長続きしないので、目標設定をほどほどにして、新たな課題などを受け入れる余力をもつことが必要です。
- ・まちづくりは、今後も新たな課題が出てくることが考えられますが、一つひとつ問題に真摯に取り組むことが、地域の信頼を得ることにつながります。

結論

以下 4 つのポイントを押さえたうえで、工夫を加え、新しいことを試みていくことが肝要であることが確認されました。

- ①まちづくり、建築、不動産などの専門家との連携や、専門的な知識・ノウハウを地域住民自らも身につける。
- ②カフェ・広場・サロンなど、さまざまな世代 (お年寄り、若者、子供、子供がいる若い世代など) が参加しやすく、一緒に居やすい場所をつくる。
- ③地域内の各種団体が連携し、互いの力を引き出し合う。足りない点は、地域外 (NPO、行政、企業、大学など) の力を取り込む。
- ④地域を見つめ直すことで、地域の資源・魅力を発見していく (例えば「空き家」は課題であるが、地域の資源として捉え直し活用を検討する)。

全体のまとめ

会場から「マンション住民にも積極的にアプローチしてもらえると地域に入りやすくなる」という感想が寄せられました。素晴らしい取組を行っているのに、情報が隅々まで届いていない地域もあると思います。今後は、地域 (町内会同士)・NPO・大学・企業・行政が輪になり、地域情報発信ツールを片手に、新しい人 (特に若い人) を巻き込んでいくことが重要だと感じました。

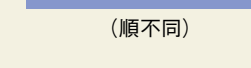
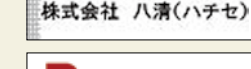
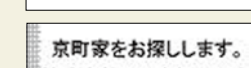
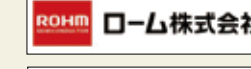
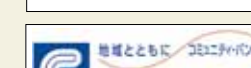
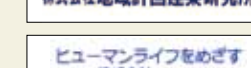
主催：公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター / 共催：京都市都市計画局まち再生・創造推進室

後援：京都市、一般社団法人日本建築学会近畿支部、

公益社団法人日本都市計画学会関西支部、公益社団法人都市住宅学会関西支部

協力：京都市文化市民局地域自治推進室

私たちは京都の
まちづくりを
応援しています。



(順不同)

京あるき in 東京 2015 / 京都創生連続講座 in 東京

京町家・東京シンポジウム「景色の継承 —京町家の再生を通して—」

当財団の「京町家まちづくりファンド」の取組を紹介するとともに、京町家の魅力と再生の意義を伝えるシンポジウムを開催しました。特定非営利活動法人京町家再生研究会理事長である小島富佐江氏をコーディネーターに、大手証券会社での勤務を経て、現在は文化財の保存修復を手掛ける株式会社小西美術工芸社代表取締役社長であり、京町家の居住者でもあるデービッド・アトキンソン氏と、宝暦年間（1751年～1763年）から代々小川治兵衛の名で作庭を行い、無鄰菴、平安神宮、円山公園など数々の国指定名勝庭園の作庭を手掛ける株式会社造園植治次期十二代である小川勝章氏をパネリストに迎え、京町家の再生を通して伝えていくべき景色について意見を交わしていただきました。

冒頭に「国家戦略としての京都創生」の取組について説明後、当財団より京町家の現状と「京町家まちづくりファンド」の取組報告を行いました。京都の景色や暮らしの文化を守る上で重要な京町家が毎年数百軒ずつ消失している現状や維持管理の費用負担が大きいことなどを示しながら、これまでファンドを活用した改修が町並みや京町家での暮らしを継承し、伝える役割を担ってきたことを紹介し、ファンドへの支援の協力を訴えました。



デービッド・アトキンソン氏
株式会社小西美術工芸社 代表取締役社長
パネリスト



小川勝章氏
株式会社造園植治 次期十二代
パネリスト



小島富佐江氏
特定非営利活動法人京町家再生研究会 理事長
コーディネーター



会場の様子

京町家が生み出す景色

はじめに小島氏から、京町家は手を入れることで極めて美しくなる反面、放置すると瞬間に景色が変わるものであり、京町家を磨き上げるポイントの一つが庭であるということ、また、手入れがなされず放置されている庭を持つ京町家は、滅失の可能性が高いという実感があると話されました。

小川氏は、代々の小川治兵衛が手掛けてきた無鄰菴の庭を例に挙げ、庭を作る際に施された数々の工夫とともに庭の見方のポイントを示し、景色には骨格があるということを解説されました。

アトキンソン氏は、京町家の再生を自身で手掛けるまでの経緯を示しながら、京町家は個人の住宅であるがゆえに、貴重な価値がありながらも取り壊すことにならぬ規制がかからないことへの疑問を投げかけ、美しい景色を大切にしようとする個人の心や考え方そのものが貧しくなっているという指摘をされました。また、民主主義発祥の国であるイギリスでは、文化的に価値のある建物を壊す自由はないことを紹介されました。

過去と未来を意識しながら現在を生きること

庭木の剪定を行う際には、ただ不要な枝葉を切り、形を整えるのではなく、次の世代の芽吹きを育てるという意識を懐に持っているという小川氏の意見を受け、アトキンソン氏も文化財の修復は300年後をイメージしており、変えてよいもの、変えてはいけないものがあると述べられました。

また、日本文化の特徴は、これまでの各時代の文化が全て残っ

ている点であり、古いものが無くなってしまえば京都であることの意味はなくなる、元々あったものと現在のものが両方あり、どちらの良さも享受することが豊かさを作り出していると述べられました。

京都の景色を守り伝えるためにこれからすべきこと

小島氏の「これからの庭との付き合い方」に対する問いかけに対し、小川氏は、「お庭を心に留めてほしい」という想いをきっかけに、あるお寺の庭を一般の方と一緒に作り上げた事例を紹介されました。それらの体験を通して、庭や街路樹の1本でも心に留めることで、景色が温かいものになると感じたということでした。

アトキンソン氏は、本来は楽しいものであったはずの日本の文化が形骸化し、堅苦しいものになっていることが残念であり、素晴らしいものであっても、堅苦しく、楽しくないものであれば外国人は来てくれないということ、広く他国にも発信する価値のある日本文化を日本人一人ひとりがきちんと守り、伝えていくことが重要であると話されました。そして、日本の文化財の未来は、ようやくこれから始まるのではないかとの見方を示されました。

最後に小島氏は、町家を守り続けるということは、自らの住まいをきれいに快適にすることにとどまらないと話されました。一人ひとりの暮らしを見直し、美しく再生することにより、その美しさが「まち」の中に浸透し、「まち」に向ける「顔」が優しいものになるのではないかと考えを示しつつ、気持ちを前に向け、何が美しいことなのかを考え続けていきたい、と締めくくられました。

日時 平成 27 年 2 月 20 日 (金) 13:30～15:30

会場 野村コンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

主催 京都創生推進フォーラム、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、特定非営利活動法人京町家再生研究会

後援 京都創生百人委員会 協力 野村コンファレンスプラザ日本橋

・京町家再生事例・

平成 20 年度 京町家まちづくりファンド改修助成事業



「わたしの“町家”の守り方」



北村邸

今回は、12 年前から京町家で宿屋を営んでおられる北村邸のご紹介です。

外観だけでなく内観も伝統的な意匠であるこの京町家は、国内外から訪れる多くの宿泊客に、

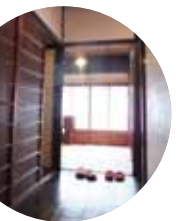
京都の暮らしの文化を伝えていきます。北村さんに、宿屋開業の経緯や町家への思い、

また近年急増する“町家ゲストハウス”に対するアドバイスを伺いました。(話し手：北村 チエ子氏)

改修前



改修後



改修後の内部

宿屋を始めたきっかけ

もともと三軒の京町家を母から受け継いでおり、自宅、借家、物置としていました。物置にしていた一軒の改修を機に、活用を考えました。当時の町家活用といえばカフェやギャラリーが主流で、また事業用の場合は、壁や床を全て取り払って、柱と梁のみの状態にしてから貸し出すのが一般的でした。しかし、それでは京町家の風情がなくなってしまう、床の間や建具も残したい、という思いがありました。そこで、宿屋であればしつらえも生かせると考えました。

当時東山区では町家を利用した宿屋がほとんどなかったため、開業に当たり旅館業法や消防法をクリアするのが大変でした。しかし、関係各所の方々がとても協力的で、親身に相談にのっていただき実現に至りました。

町家での暮らし

「町家そのもの」の宿屋にしたいと思い、エアコンは設置していませんでした。しかし、厳しい暑さが続くことが増え、昨年やむなく設置を決めました。

京町家は夏を中心に考えられており、よく風が通ります。窓や戸を開けていればある程度快適に過ごせるというのが京町家では当たり前でした。しかし、エアコンがない環境に慣れておらず、窓を開けたままでは怖くて寝られないという方もいらっしゃるようです。かつての「日常」は、変化する現在の生活様式に合わない面もあるようです。

「町家暮らし」にどこまで現代的な設備を導入するか、さまざまな考えがあるでしょう。今回の件でお客様からも、「いままで

頑張ってきたのにどうして」、「これで暑い夏も泊まりに来られる」、と正反対のご意見をいただきました。それでも、多くの方に「かつての日常」という非日常を楽しんでいただけたらうれしいです。

町家を守る大工さん

町家を維持管理していくために大事なことは、大工さんとの信頼関係を深めていくことです。大雨や台風が来ればどこかに不具合が生じます。信頼できる大工さんを見つけるまでは、そのたびに不安に襲われましたが、日頃からお付き合いがあれば、困ったときすぐに駆けつけてくれます。また、その度にあらためて町家と向き合い、大工さんと現場でやりとりすることになります。町家にお住まいの方も、新しく町家を活用したい方も、一度きりの改修と考えず、維持管理を視野に入れて大工さんを探されるのがよいですね。

町家ゲストハウスをされる方へ

京都の文化を国内外へ発信しているのだ、とお客様から気づかされることがあります。町家ゲストハウスが宿泊形態の主流になりつつある昨今、特に海外から「町家」を求めて来られる方々は、京都のことも町家のこともよく勉強されています。外側だけでなく、伝統的な構法や素材、しつらえの「本物」を体験したいと町家を選ばれます。そういった期待に応えていれば、自然に人も集まるのではないのでしょうか。町家のためにも自分のためにも、町家をどのように扱い、守っていくかをじっくり考えたいと思います。

※宿泊利用以外の方の見学等は受け付けておられませんので、ご了承下さい。

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つ…。元気なまちへの一歩、あなたから始めませんか。

京のまちづくり史セミナー

平成26年
11月25日火

郊外居住を求めて：北白川の形成と暮らし

講師：石田 潤一郎氏（京都工芸繊維大学大学院教授）



北白川の歴史について、大正から昭和戦前にかけて広がりをみせた郊外居住との関わりからお話しいただきました。郊外居住とは、20世紀初め頃から東京や大阪の大都市圏の中産階級の間ではじまった生活様式で、都心から離れた環境のよい場所で専用住宅に住まうというものでした。こうした新たな生活様式は、京都でも徐々に受け入れられていきます。

北白川は、京都大学北部構内の拡張に伴い京都大学の学生や教員が増えたことや、市電や叡山電鉄開通などのインフラ整備

を背景として、郊外住宅地として開発が進みました。北白川小倉町は大正15年に販売が開始され、昭和12年までに約2万坪の土地が売却されました。土地の購入者台帳や京都大学の職員録から、北白川の住まい手の一定数は、教官や学生など京都大学関係者だったことが明らかになりました。当時の資料を用いながら、北白川は、京都における職住分離の生活スタイルの広がりと、郊外居住を積極的に求めた人々によって形成されていったことをお話しいただきました。

まちづくり実践塾

平成26年
10月29日水

頭と体と手を使う—体験から始まる参加の形—

講師：門内 輝行氏（京都大学大学院教授）



これまで教育分野では、知識を得てから行為に移るという考え方が主流でした。しかし昨今、知ることと行動することを切り離して考えない「Learning by/in doing（行うことによって / において学習する）」という考え方が浸透し始めているそうです。

この考え方をまちづくりやデザイン活動に取り入れた事例として、1つは、「演劇」の手法を用いた「修徳学区のまちの将来像のデザイン」が挙げられます。まちの将来像にストーリー性を持たせ、それを住民と共有する試みを展開しました。もう1つは、「ブックワールドプロジェクト」と位置づけられた、下京区洛央小学校での図書室のリノベーションが挙げられます。「ワークショップ」により生徒とともにアイデアを出し合い、子ども主体による学びの場づくりを実現しました。

体験を伴った参加機会は、コミュニケーションを軸とした「創造的で協働的な学びの活動や場」となるという点で、「生きた学び」をまちづくり活動の中で展開することの可能性を示していただきました。



今後の開催予定（春季）

京のまちづくり史セミナー

第1回 テーマ 京を住みこなす：古代から中世へ
日時 4月28日（火）18:30～20:30
講師 高橋康夫氏（花園大学教授・京都大学名誉教授）

第2回 テーマ 環境史からみる平安京：自然と人の共生
日時 5月26日（火）19:00～21:00
講師 河角龍典氏（立命館大学教授）

第3回 テーマ 近代京都の建設：土地区画整理事業を中心に
日時 6月30日（火）19:00～21:00
講師 中川理氏（京都工芸繊維大学教授）

まちづくり実践塾

第1回 テーマ 京都の学区の成り立ち
日時 4月23日（木）19:00～21:00
講師 和崎光太郎氏（京都市学校歴史博物館学芸員）

第2回 テーマ 京都の住民自治：学区に根づく地縁組織とその活動
日時 6月4日（木）19:00～21:00
講師 石本幸良氏（京・まち・ねっと代表）

京町家再生セミナー

京町家の“最初の一步”としての基本講座です。身近な存在としての京町家の姿を知り、再生の方法などを学びます。

平成26年
11月28日金

木を見る：京町家、防火改修の最前線

講師：木村 忠紀氏（京都府建築工業協同組合理事長）

協力：京都市消防局予防部



町家の立ち並ぶ姿が京都の魅力ですが、木造密集市街地は延焼の恐れなど防災上の問題があります。町家を残したまま、火に強いまちにはできないでしょうか。そこで京都市消防局から木造住宅にかかる建築上の防火規制について実際の火災現場写真と共に解説いただき、木村氏からは、「京町家」の意匠を損なわない防火改修の考え方や方法をお話しいただきました。

防火改修の目的は延焼防止と避難時間の確保です。京町家は木部が火に弱い一方で土壁などは防火性能が認められており、火袋（吹抜空間）は煙と火の抜け道となり延焼防止に繋がります。こうした町家本来の性能に加え、一定の基準を満たせば伝統的な意匠を保ったまま防火性能の向上が可能です。ただし、隣家と密接していますから、改修だけでなく近隣と相談合って玄関以外の避難経路をもうひとつ確保することも大切です。

町家は危険ばかりではありません。京町家のもつ性能をきちんと評価して補っていかば、趣ある意匠を残しつつ安心して暮らせるとお話しいただきました。



平成27年
1月21日水

京町家、断熱改修の最前線！

講師：冨家 裕久氏（冨家建築設計事務所）

協力：京都市産業観光局新産業振興室／京都市都市計画局住宅室住宅政策課



京都市次世代環境配慮型住宅「エコリノベーション※・京町家」の改修事例を基に、夏と冬の断熱の考え方の違いや高気密化の重要性、町家の風情を失わないための断熱改修方法についてお話しいただきました。

夏は屋根面から入ってくる熱を最大限に抑え、冬は南面からの熱を最大限に取り込む工夫や、隙間風を防ぐための気密性があってこそ断熱が成立することなどをわかりやすく説明していただきました。木製建具を生かした断熱改修方法として、複層ガラスに太鼓貼障子（両面に障子紙を張ったもの）を組み合わせたことや、木製建具を閉めた際の気密性を高めるために戸じゃくり（引戸などが柱や枠材に当たる部分に彫った浅い溝）を入れるなどの事例を紹介していただきました。また、縁側や出格子などの空間を断熱材の代わりの空間と捉え、全館空調ではなく居室など日常的に長く居る空間を暖房することで省エネに繋がることや、断熱改修工事により快適性が増すだけでなく、暖冷房等の電気代を削減でき、改修費用を回収できることをお話しいただきました。

今後は、断熱性能の「見える化」を図り、最新技術の建物と伝統的な建物の性能や特徴を理解したうえで住宅を選択できるようにすることが求められるということでした。

※省エネ、CO2削減など環境に配慮する「エコ」の視点で、住宅の価値を高める比較的大規模の改修「リノベーション」を施すこと。



【申し込み方法】

①セミナー名 ②開催日
③氏名（ふりがな）④電話番号
以上を明記の上、電話・FAX・入力フォームにて「京都いつでもコール」までお申し込みください。
TEL 075-661-3755 FAX 075-661-5855

京都いつでもコール

検索

展示施設

「京のまちかど」 案内ボランティアさん紹介

このコーナーでは、京都市景観・まちづくりセンター（以下「まちセン」）1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアさんをインタビューにより紹介します。

今回は、展示ボランティア歴10年の秋山恬子さんです。

秋山さんの出身はどちらですか？

元々は、岡山県の出身です。京都には20年ほど前に転居してきました。

京都に住んでどんなことを感じましたか？

古都というイメージがありましたが、交通は整備されていますし、買い物にも不自由しないなど、想像していたより都会的な町でした。また、これまでに住んでいた場所に比べ「福祉」が充実

していると思います。“住めば都”ではないけれど、本当に暮らしやすい町だと感じました。

展示案内ではどういことを伝えたいですか？

京のまちかどには、修学旅行生をはじめ、京都以外から来られる方が多くいらっしゃいます。私も、外の人間でするので自分が感じた、京都ならではの職住一体の暮らしや疎水事業など明治期の復興に象徴される京都人の開拓精神などといった京都の魅力を伝えていければと思っています。

Vol.4

秋山 恬子さん



FM79.7
京都三条
ラジオカフェ

まちづくりチョビット推進室ってご存知ですか？

地元の建設屋さん、京都でまちづくりをしている色々な人を紹介するラジオ番組です。当財団も平成21年度から協働で放送をしています。

12月の放送 壬生オアシスガーデンで遊ぼう！

壬生オアシスガーデンオーナーの久武さん、立命館大学の武田教授と武田研究室の久保田君をゲストにお招きしました。

壬生オアシスガーデンは、隣近所の方から通りすがりの人にも使ってもらえるよう開放された公共空間で、なんと、久武さんが自宅前の敷地を提供されています。長年サラリーマンとして働いた久武

さんは、地域ともっと関わりを持ちたいという思いのもと、10年ほど前に自宅前の敷地を開放されました。紆余曲折を経て、壬生オアシスガーデンでは、立命館大学武田研究室の学生さんや地域の方々、久武さんご夫妻が一緒になって、「芋ほり炊き出し大会」、「おとなのラジオ体操」など、色々なイベントが開催されるようになりました。久武さんは、今後はイベントだけでなく、壬生オアシスガーデンをもっと普段使いしてほしいとのことでした。

パーソナリティ・絹川さんは、実はまちの縁側フリーク。興味深々で質問しては、みなさんの話に聞き入っていました。

※過去の放送分はインターネットでもお楽しみいただけます。
<http://www.kohsei-const.co.jp/chobitto/chobitto.html>

前列左から：久保田君、久武さん、
武田先生／後列左から：絹川さん、
まちセンスタッフ



今年度放送した内容

- ◆第1回(6月) このまちのためにできること
～先斗町まちづくり協議会ってご存知ですか？
先斗町まちづくり協議会 副会長 金田祐一氏
事務局長 神戸啓氏
- ◆第2回(9月)「NPO法人 らくさいライフスタイル」
～洛西流のCSR～企業の社会的責任ではないです
よ～とは？～
NPO法人 らくさいライフスタイル 村下恒雄氏
- ◆第3回(12月)
壬生オアシスガーデンで遊ぼう！
壬生オアシスガーデンオーナー 久武公一氏
立命館大学理工学部准教授・武田計画室(建築・
ランドスケープ)代表 武田史朗氏
立命館大学 武田研究室 久保田貴大氏
- ◆第4回(2月)
タイトル未定
株式会社カスタネット代表取締役社長
一般社団法人 京都ソーシャルビジネス・ネットワー
ク代表理事 植木力氏

まちづくりチョビット推進室

検索

図書スタッフの おススメ本 vol.4

「京町家づくり千年の智慧「間口三間」を 生かす独自のこしらえ」 町家大工棟梁 山本茂著

京格子に虫籠窓、ぱったり床几と犬矢来、ウナギの寝床に通り庭……
京都弁丸出しの大工さんが京都人の知恵と町家大工の工夫を教えてください。
町家ブームのなかであって、町家を守る京都独特の建築法や大工の心構えを伝えています。
図書コーナーには、京町家に関する書籍が充実しています。ぜひお立ち寄りください。

ホームページから
図書を検索できます。



ひと・まち交流館 図書コーナー

検索

私と京都

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 理事
大阪学院大学教授
安本典夫



「変貌する『千年の都』」

京都に出て来たのは1962年だから、もう半世紀余になる。岩倉盆地に下宿することになっていたのが、京都駅から市電6番(東山七条・祇園・高野・烏丸北大路・烏丸四・条・京都駅)に乗り、「元田中で、京福電鉄(叡電)鞍馬行きに乗り換える」と頭の中で反芻していたら、いきなり「次は鞍馬口」のアナウンスにびっくりして下車。結局、人に尋ねながら出町柳駅まで歩いた。東山周りで行くべきところを反対方向の烏丸周りに乗ってしまったミスによる。京都の最初の思い出が「市電」である。もっとも、こんなミスさえなければ、市電は分かりやすい乗り物で、好きだった。この市電も今はなく、記憶にすらない人も多くなっているのではないかな。この半世紀でも、随分まちの眺めは変貌した。高度経済成長の時期に重なるため、その変化は短期間に大きいものがあったといわれる。

もっとも、京都のまちは「千年」の間にもっと大きな変化をしてきた。千年前からあった建物は皆無で、また、御所その他の施設配置・街路等々まちのづくりも「平安建都」のころとは大きく異なっている。人口も、9世紀頃は12万人前後、15世紀で20万人程度、応仁の乱を経て16世紀戦国期には3万人程度に激減、その後17世紀初頭には20万人近くに復興し、17～18世紀にはほぼ40万人程度、東京遷都後の1874年

には22万人台に減少、という推定もあり、随分転変を経てきている(高橋昌明『京都<千年の都>の歴史』岩波新書、大西國太郎『都市美の京都』鹿島出版会など)。

転変の原因は何か。政治の都として作られた京都には、その政治権力を執行する人を中心として多様な多くの人が集まり、全国の富も集まり、その上に文化が栄え、都市社会が展開した。政治の動向如何によって都市の状況も変化したのは、ごく自然のことだった。

もっとも、この展開の中で、ストックとしての「まち」は、変容しながらも長年かけて積み重ねられ、独特の姿を形づくってきた。また、茶道・華道・舞踊・工芸技術その他の文化や宗教関係などの分厚い集積がなされてきた。私たちの目の前にある「京都」は、こうして独特の価値を持つ文化都市となった。

変貌する社会構造(人口減と高齢化なども含み)の中で、どうこの価値を守り発展させるか、京都の課題である。同時に、全国津々浦々からの政治的・文化的「上納金」等によってこの価値の土台が形成されたことを考えれば、今、変貌の中でこの価値を守り発展させるのは、京都に関わるすべての人(私も含め)の、全国の人に対する責務でもあろう。京都の大寺院の壮大な屋根を見ながら、故郷・瀬戸内の島の小じんまりしたお寺の屋根を思い浮かべ、そう思った。



若者を中心に流行している“聖地巡礼”をご存知でしょうか？ アニメや漫画の舞台となったまちを“聖地”と呼び、実際に訪ねることをいうそうです。

京都は神社仏閣が多いので「大人が楽しめるまち」というイメージでした。しかし友人は、修学旅行の自由時間で“巡礼”していたよ！とのこと。京都が舞台のアニメは多く、巡礼地としても人気のようです。京都出身者としては、幅広い世代から関心が高い

のはきっかけがどんなことであっても嬉しいものです。

京都は昔から、いろいろな分野の作品の舞台になっていますよね。文学作品、映画……、サスペンスドラマでもお馴染み！そろそろお出かけしやすい季節ですから、お気に入りの作品を探して、いつもとちがう角度からまちを楽しんでみられてはどうでしょうか。でも本屋にレモンを置いて行くのはだめですよ。

スタッフ R・E